

2006年度上期決算 投資家説明会
2006年11月30日



SMFG

株式会社 三井住友フィナンシャルグループ

本日のアジェンダ

- | | |
|---------------------------------|-----|
| 1. 2006年度上期総括 | P 2 |
| 2. 2006年度上期決算の概況 | P 4 |
| 3. 2006年度業績予想 | P18 |
| 4. 戦略ビジネスの概況、及び下期方針 | P20 |
| 5. 持続的成長に向けたブレークスルーへ | P28 |
| (1) グループ戦略 ～ 新たな“収益の柱”の創出に向けて ～ | P30 |
| (2) CS・品質向上、コンプライアンス強化への取組み | P33 |
| 6. 最後に | P35 |

1. 2006年度上期総括

1. 2006年度上期総括： 持続的成長に向けた取組みを集中的に推進

持続的成長に向けた取組み

顧客価値創出に
資する質の高い
商品・サービスの
グループベース
での提供

戦略ビジネスの一段の強化

- ▶ 個人向けコンサルティング
法人向けソリューション

グループ戦略の推進

- ▶ リース、証券、消費者金融ファイナンス
ケータイクレジット、インターネットバンキング

CS・品質向上への取組み強化

- ▶ CS・品質向上委員会スタート
品質管理部設置

内部管理体制の一段の高度化

- ▶ コンプライアンスの徹底
リスク管理の高度化(バーゼルⅡ対応等)

財務基盤の一段の強化

- ▶ 公的資金の返済加速、06/10月完済

強固な企業基盤
の構築

2006年度上期業績

- ✓ 債券ポートフォリオのリスク削減に伴う売却損を主因に、
トップラインは当初予想比減益
- ✓ 一方、クレジットコスト減少等を通じ、
ボトムラインは当初予想水準を概ね確保

主要財務計数

- ✓ 連結業務純益： **4,264億円**
(前年同期比▲1,532)
- ✓ クレジットコスト(SMBC単体)： **332億円**
(当初予想比△518、前年同期比△964)
- ✓ 連結当期純利益： **2,437億円**
(当初予想比▲163、前年同期比▲1,487)

2. 2006年度上期決算の概況

(1) ボトムライン

(2) トップライン:

SMFG連結 粗利益

SMBC単体 業務粗利益

資金利益

貸出金残高

貸出利鞘

経費

業務部門別実績

(3) 国債等債券損益、株式等損益等

(4) 資産項目:

有価証券ポートフォリオ

不良債権関連

(5) 資本:

公的資金返済

自己資本比率



2. 2006年度上期決算の概況 (1) ボトムライン

参照箇所：
決算短信P.19、
説明資料P.1,2、
データブック P.2,6

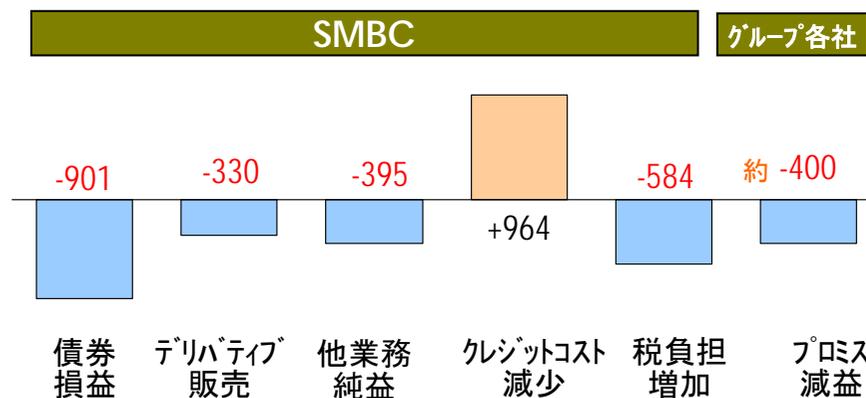
(単位:億円)

	06年度 上半期 実績	前年 同期比	当初 予想比
SMFG 連結	経常収益	18,258	+679
	経常利益	3,571	▲1,067
	当期純利益	2,437	▲1,487
SMBC 単体	業務粗利益	6,091	▲1,575
	(除く国債等 債券損益)	6,708	▲675
	経費	▲2,975	▲51
	業務純益*	3,116	▲1,626
	与信関係費用	▲332	△964
	経常利益	2,691	▲907
	当期純利益	1,836	▲1,151

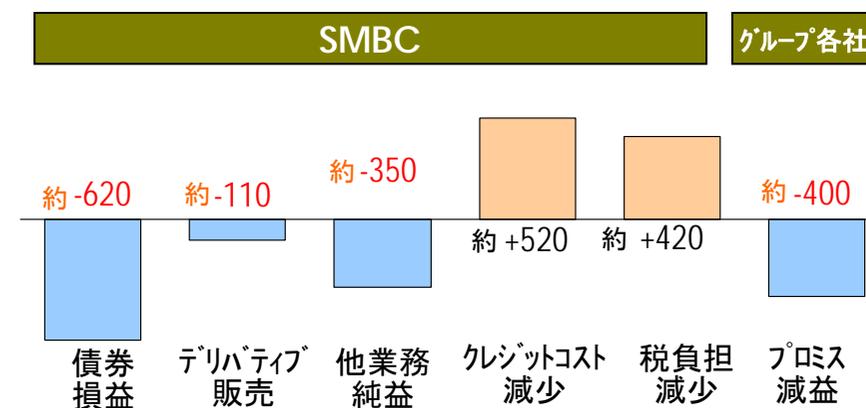
前年同期比
増減要因

当初予想比
増減要因

FY05上期 3,923 ▶ FY06上期 2,437 [前年同期比 ▲1,487]



当初予想 2,600 ▶ 実績 2,437 [当初予想比 ▲163]



* 一般貸倒引当金繰入前



2. 2006年度上期決算の概況

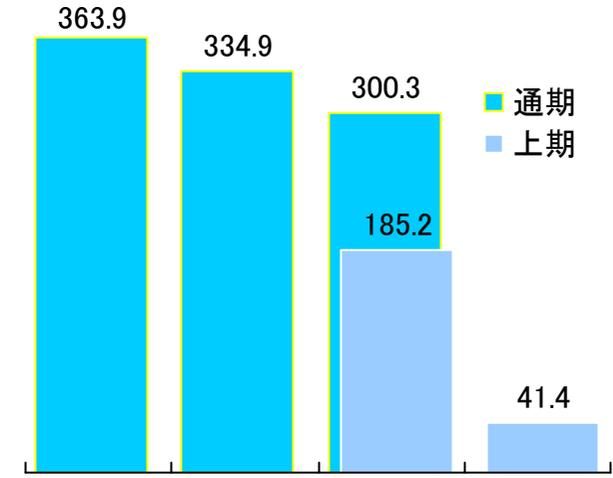
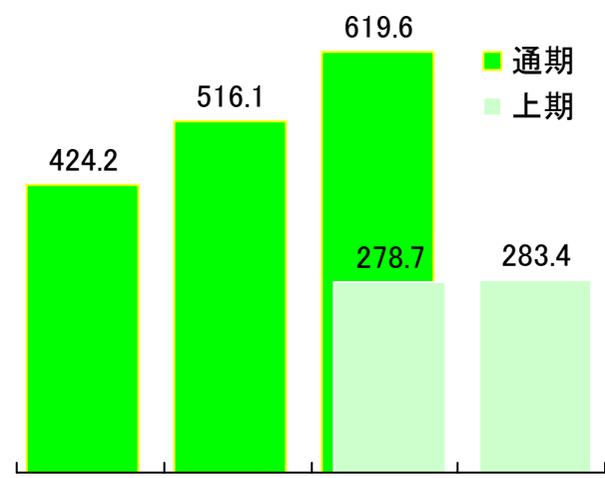
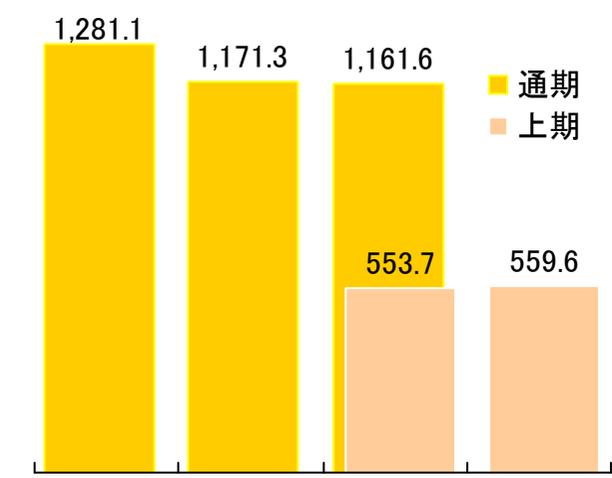
(2) トップライン: SMFG連結 粗利益

参照箇所:
決算短信P.19、
説明資料P.2、
データブックP.2

資金利益

役務取引等利益

特定取引利益+その他業務利益



	05 1H06	06 前年同期比
SMFG連結計	559.6	+5.9
うち SMBC	443.8	▲10.5
関西アーバン銀行	26.7	+2.3
みなと銀行	22.4	▲0.3
欧州三井住友銀行	12.6	+5.0

	05 1H06	06 前年同期比
SMFG連結計	283.4	+4.7
うち SMBC	159.5	▲3.9
三井住友カード	57.9	+4.9
SMBCフレンド証券	19.6	▲1.0
欧州三井住友銀行	5.9	+2.1

	05 1H06	06 前年同期比
SMFG連結計	41.4	▲143.8
うち SMBC	4.4	▲140.2
三井住友銀リース	38.8	+0.8
日本総研	8.5	▲0.9

※ SMFG連結粗利益合計: 8,858億円(前年同期比▲1,361億円)

(三井住友フィナンシャルグループ連結ベース、単位:10億円)

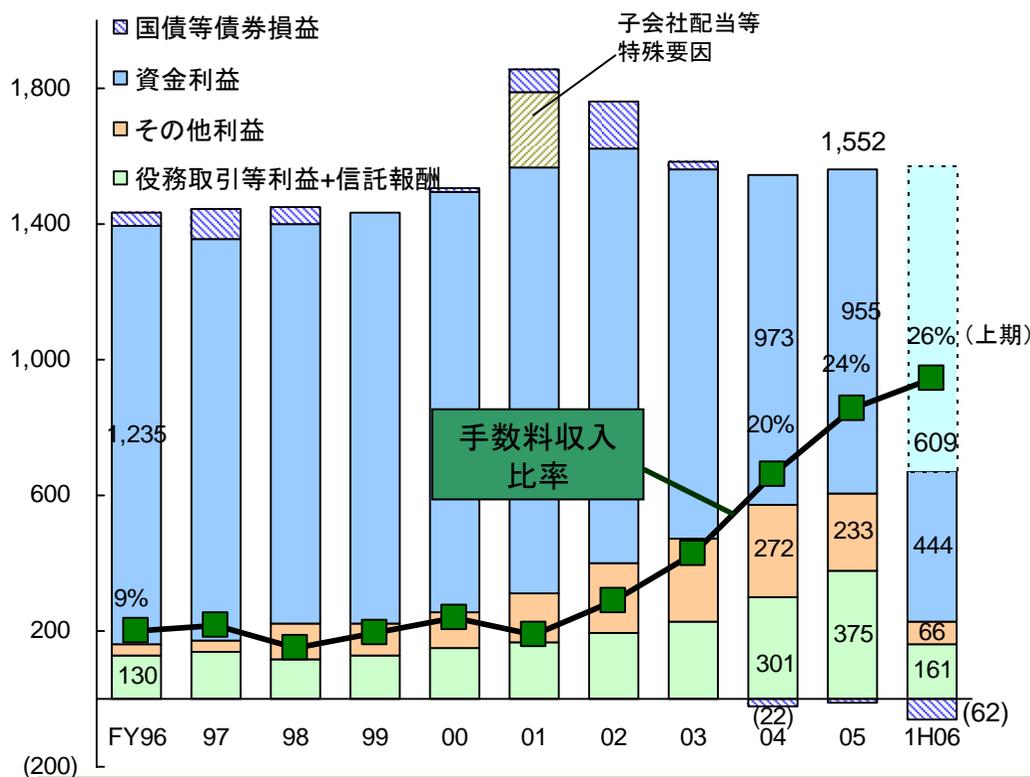


2. 2006年度上期決算の概況 (2) トップライン: SMBC単体 業務粗利益

参照箇所:
説明資料P.1、
データブックP.7

業務粗利益

(単位:10億円)



(注) 00年度以前は、旧さくら銀行・旧住友銀行の合算
その他利益=特定取引利益+その他業務利益-国債等債券損益

前年同期比増減益要因

(単位:10億円)

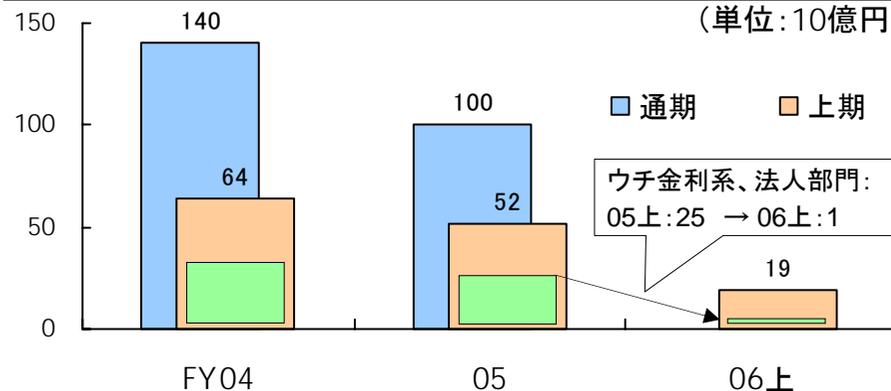
業務粗利益

▲157.5

- 資金利益 ▲10.5
- 役務取引等利益+信託報酬 ▲6.8
- 特定取引利益+その他業務利益 ▲140.2
 - ウチ 国債等債券損益 ▲90.1
 - ウチ 対顧客デリバティブ販売関連収益 ▲33.0

対顧客デリバティブ販売関連収益*

(単位:10億円)



* 各年度における行内管理ベース

(三井住友銀行単体ベース)

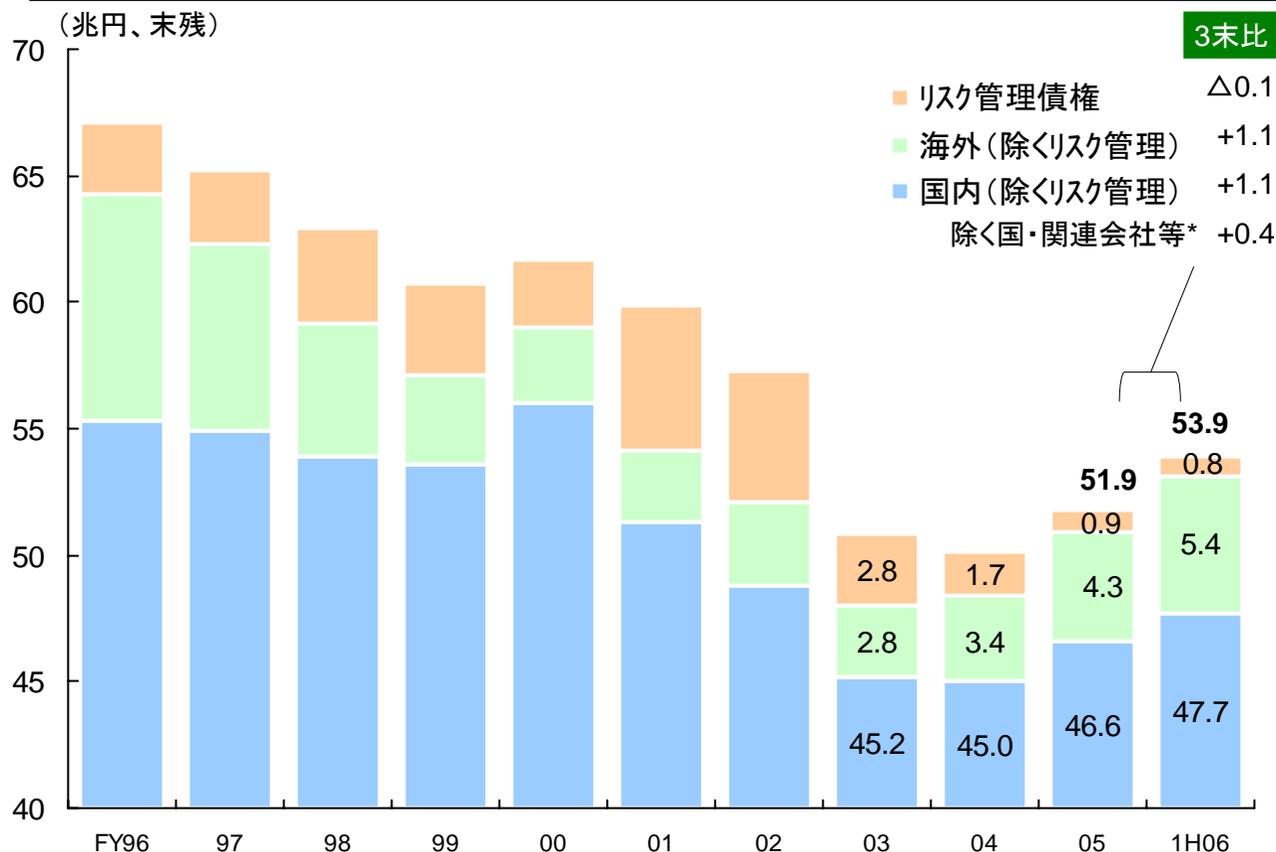


2. 2006年度上期決算の概況

(2) トップライン: 資金利益 貸出金残高

参照箇所:
説明資料P.14、
データブック P.8,12

貸出金残高の推移



国内業務部門別期末貸出残高

(単位: 兆円)

業務部門	期末残高	
	06年度 上期	06/3 末比
個人	14.6	+0.2*
法人	21.6	▲0.3
企業金融	10.1	+0.5

* 住宅ローン証券化分の加算調整後

(三井住友銀行単体ベース)

(注) 00年度以前は、旧さくら銀行・旧住友銀行の合算



2. 2006年度上期決算の概況

(2) トップライン: 資金利益 貸出利鞘 ①

参照箇所:
説明資料P.24、
データブック P.7,8

資金利益の増減要因

(単位: 億円)

	05年上期		06年上期	
	(a)	(b)	(b)-(a)	
資金利益	4,543	4,438	▲105	
うち 預貸金利益	3,865	3,637	▲228	
貸出金利息	4,828	5,362	+534	
預金利息	▲ 963	▲ 1,725	▲ 762	
うち有価証券利息・配当金	1,207	1,551	+344	
うち 金利スワップ収支	134	▲149	▲283	

国内預貸金利鞘 (財務会計ベース)

(単位: 兆円、%)

	平均残高		利回り	
	06年度 上期	前年 同期比	06年度 上期	前年 同期比
貸出金* (a)	45.8	+1.5	1.65	▲0.10
(除く国庫向け貸出)	45.0	+0.7	1.69	▲0.07
預金等 (b)	60.4	+0.9	0.06	+0.04
預貸金利鞘(a)-(b)	-	-	1.59	▲0.14

*除く金融機関ベース

- ✓ 短期プライムレート 1.375%→1.625% (+0.250%、8/21~)
- ✓ 普通預金金利 0.001%→0.100% (+0.099%、7/18~)
- ✓ 定期預金金利(1年物、大口) 0.150%→0.300% (+0.150%、7/18~)

(三井住友銀行単体ベース)



2. 2006年度上期決算の概況 (2) トップライン: 資金利益 貸出利鞘 ②

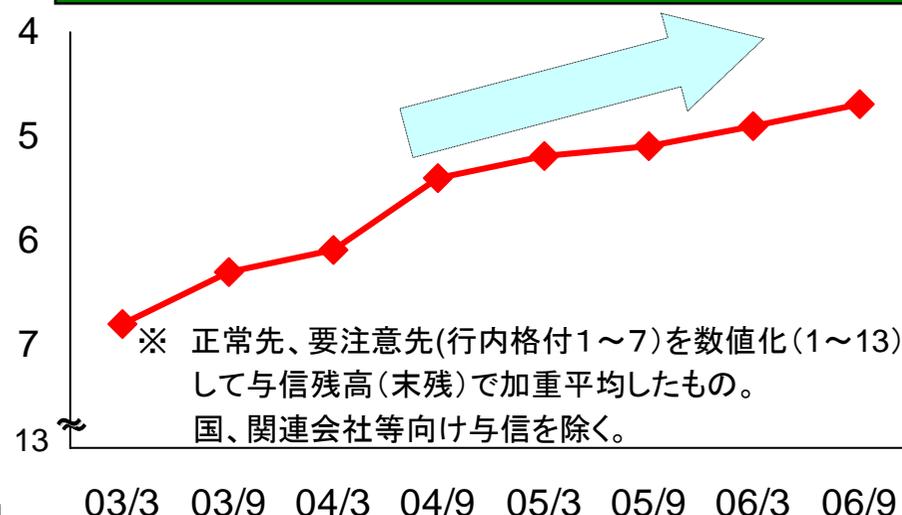
参照箇所:
データブック P.8

期中平均貸出残高・利鞘(行内管理ベース)

(単位:兆円、%)

業務部門	平均残高		利鞘	
	06年 上期	前年 同期比	06年 上期	前年 同期比
個人	14.8	+0.4	1.69	▲0.04
法人	21.1	0.0	1.44	▲0.11
企業金融	9.8	+0.1	0.67	▲0.08

貸出ポートフォリオ(SMBC、国内)の平均行内格付けの推移



(ご参考) 国内資金利益の増減要因 (行内管理ベース)

(単位:億円)

	05上	06上	前年同期比
国内資金利益	4,590	4,515	▲75
うち 国内業務部門			
貸金収益			▲約160
流動性預金			+約110
その他			▲約25

国内貸出種類別の貸出利回り更改状況 (単位:兆円、%)

貸出種類	06/9末残	06/3末 →06/6末	06/3末 →06/9末
スプレッド [®] 貸出 1年以内	19	+0.06	+0.22
プライム貸出	10	+0.01	+0.19
住宅ローン等(プライム連動)	7	-0.01	-0.02

(三井住友銀行単体ベース)



2. 2006年度上期決算の概況 (2) トップライン: 経費

参照箇所:
説明資料P.1、3
データブックP.2

- ✓ 粗利益減少に伴い、経费率上昇
- ✓ 年間を通じては、40%程度の水準を維持する方針

増減要因(前年比、単位:億円)

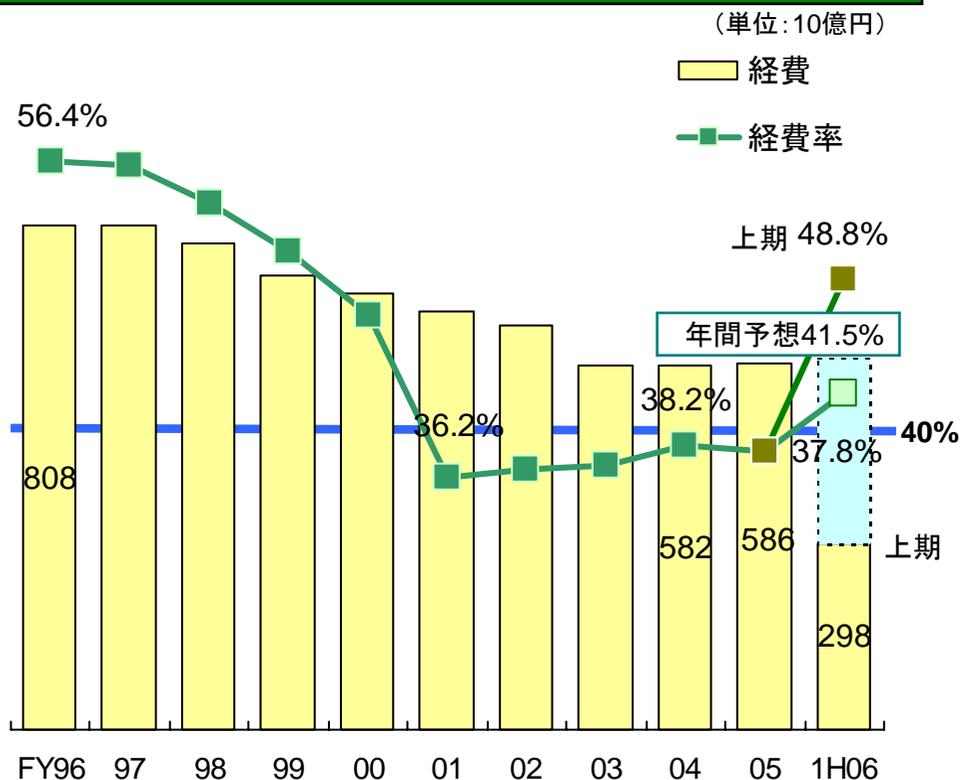
06上期 経費	2,975	(前年同期比 + 51)
うち 人件費	969	(" Δ20)
物件費等	2,006	(" +71)

重点分野への資源投入 約+ 70

ウチ 個人関連	約+ 50
ウチ 中堅・中小企業向貸出他、法人関連	約+ 10
ウチ システム等インフラ整備	約+ 10

コスト削減等 約Δ 20

経費(三井住友銀行)



(三井住友銀行単体ベース)



2. 2006年度上期決算の概況

(2) トップライン: 業務部門別実績

粗利益構成比		06年上期	前年同期比*
個人部門	粗利益	1,913	▲50 ①
	経費	▲1,232	△12
	業務純益	681	▲38
法人部門	粗利益	2,905	▲423 ②
	経費	▲935	▲6
	業務純益	1,970	▲429
企業金融部門	粗利益	891	▲89 ③
	経費	▲144	▲3
	業務純益	747	▲92
国際部門	粗利益	570	+68 ④
	経費	▲223	▲18
	業務純益	347	+50
マーケティング部門	粗利益	6,279	▲494
	経費	▲2,534	▲15
	業務純益	3,745	▲509
市場営業部門	粗利益	0	▲1,237 ⑤
	経費	▲88	△3
	業務純益	▲88	▲1,234
本社管理	粗利益	▲188	+156
	経費	▲353	▲39
	業務純益	▲541	+117
合計	粗利益	6,091	▲1,575
	経費	▲2,975	▲51
	業務純益	3,116	▲1,626

粗利益の前年同期比増減主要因*

①個人	個人年金保険販売	▲28
(▲50)		
②法人	金利スワップ販売関連	▲240
(▲423)	貸金収益	▲111
	投資銀行業務関連	▲33
③企業金融	預貸金収益	▲37
(▲89)	非金利収益	▲52
④国際	非金利収益	+75
(+68)		
⑤市場営業	バンキング収益	▲1,129
(▲1,237)	(含む債券ポート関連)	
	トレーディング収益	▲106

* マーケティング部門の前年同期比は、金利・為替影響等(本社管理で調整)を控除した行内管理ベース。(三井住友銀行単体ベース、単位:億円)

2. 2006年度上期決算の概況

(3) 国債等債券損益、株式等損益等

参照箇所：
説明資料P.1,3,4

国債等債券損益

	05年度上期	06年度上期	前年同期比
合計	284	▲617	▲901
売却益	398	118	▲280
売却損	▲112	▲680	▲568
償還益	1	0	▲1
償還損	▲3	▲55	▲52
償却	-	-	-

株式等損益

	05年度上期	06年度上期	前年同期比
合計	250	87	▲163
株式等売却益	342	147	▲195
株式等売却損	▲4	▲1	+3
株式等償却	▲88	▲59	+29

その他有価証券評価損益



(三井住友銀行単体ベース、単位:億円)

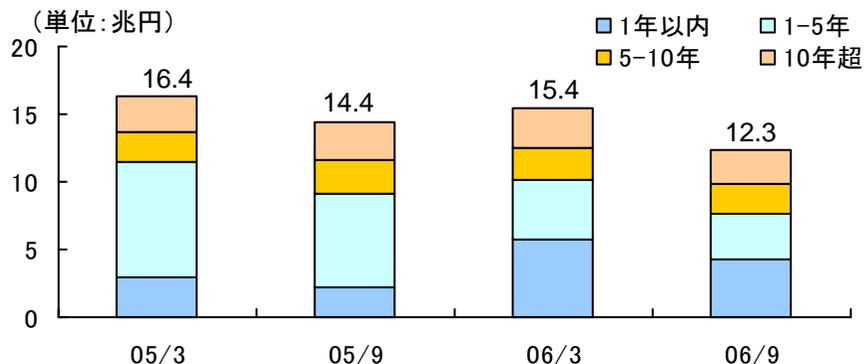


2. 2006年度上期決算の概況

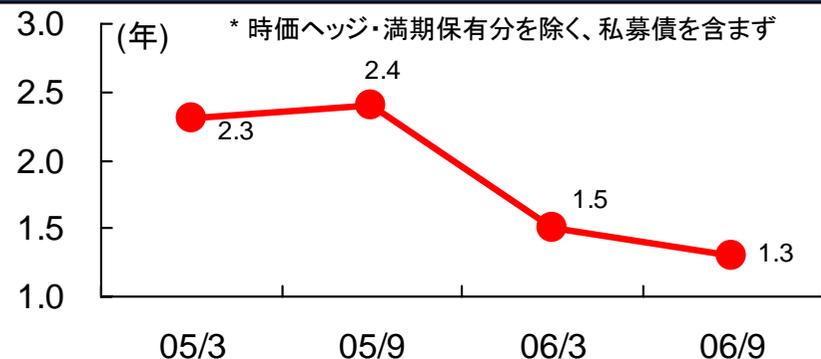
(4) 資産項目： 有価証券ポートフォリオ

参照箇所：
説明資料P.5
データブック P.13

円債ポートフォリオの残高推移



円債の平均デュレーション*の推移



その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の残存期間別残高

(単位: 億円)

06/9末	1年以内		1年超5年以内		5年超10年以内		10年超		合計	
		06/3末比		06/3末比		06/3末比		06/3末比		06/3末比
債券	42,674	△14,166	34,405	△10,610	21,259	△1,712	25,056	△4,125	123,396	△30,613
国債	37,196	△15,646	10,568	△9,051	8,086	△2,758	24,008	△4,061	79,859	△31,517
地方債	385	+175	1,876	△197	3,147	△27	4	0	5,414	△47
社債	5,092	+1,304	21,960	△1,362	10,026	+1,073	1,043	△64	38,123	+952
その他	11,047	+3,841	10,662	△4,422	8,101	+1,437	5,172	△1,545	34,983	△689
合計	53,722	△10,325	45,067	△15,032	29,361	△274	30,229	△5,670	158,380	△31,302

(三井住友銀行単体ベース)

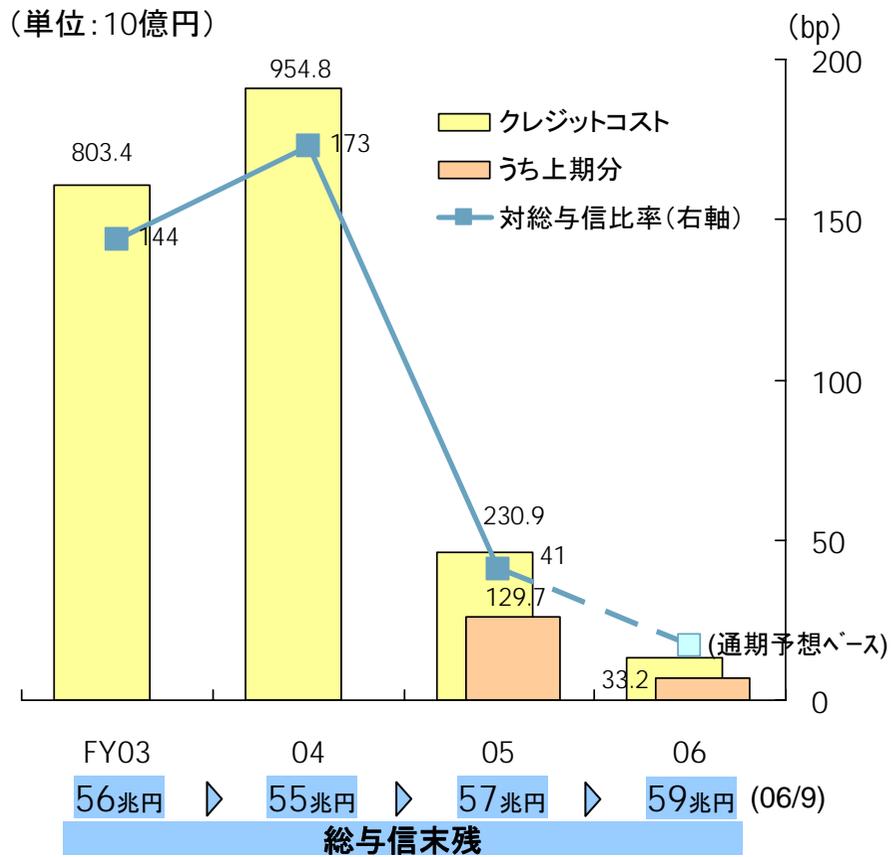


2. 2006年度上期決算の概況

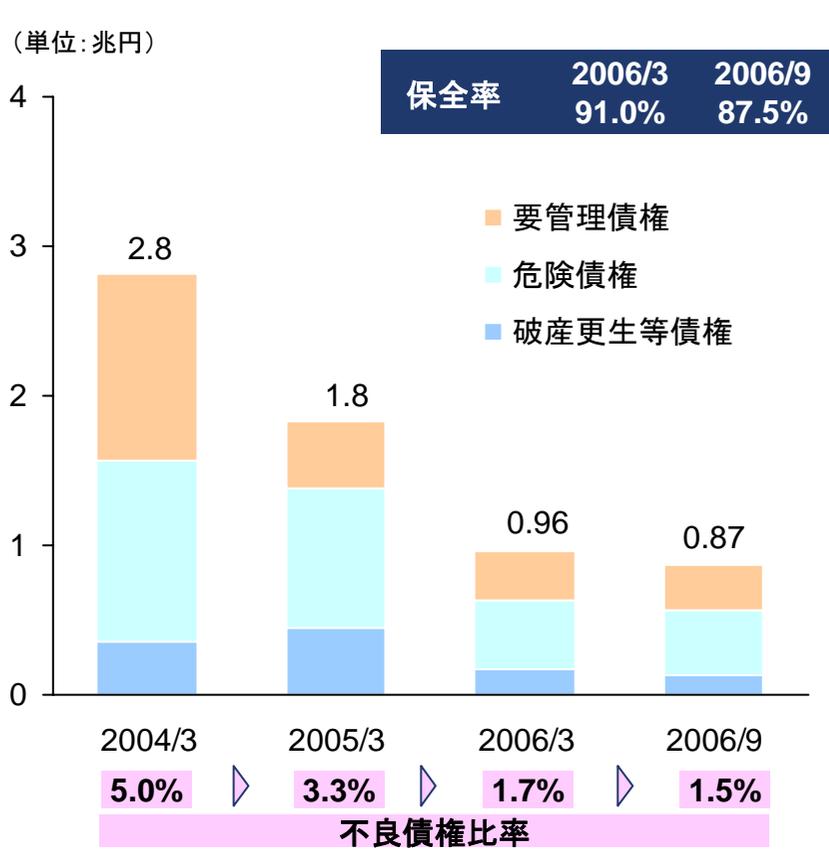
(4) 資産項目：不良債権関連

参照箇所：
説明資料P.1,8,11
データブックP.10,11

クレジットコスト



不良債権残高



(三井住友銀行単体ベース)



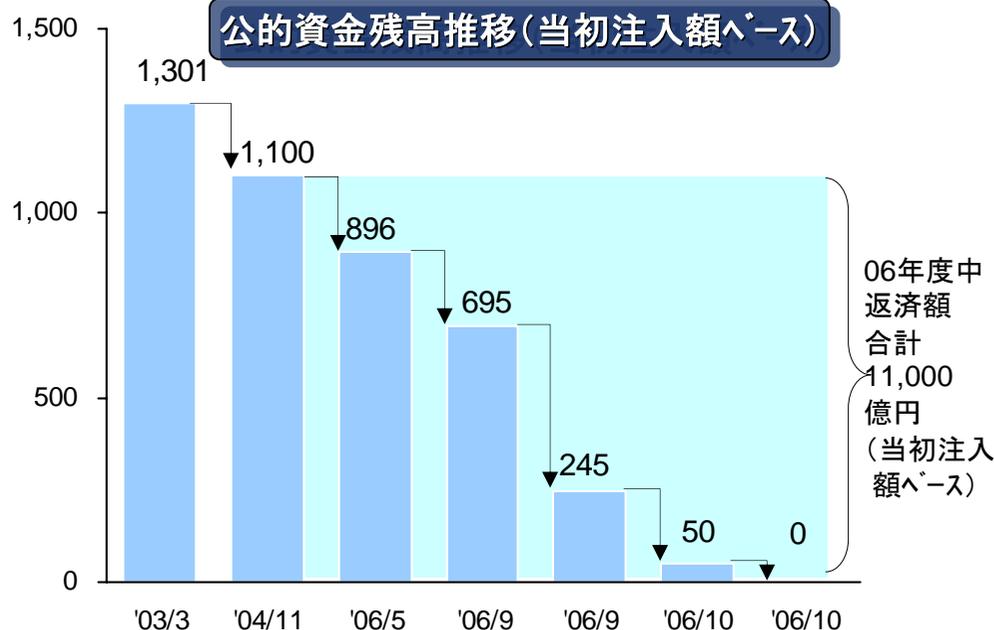
2. 2006年度上期決算の概況

(5) 資本： 公的資金返済

参照箇所：
データブック P.5

- ✓ 公的資金を当初予定(今年度末迄)を前倒し、10月中に完済
- ✓ 希薄化影響回避の観点から、全額買受により返済

(単位:10億円)



公的資金優先株式の返済推移

(単位:億円)

	返済額		返済額累計	
		当初注入額ベース		当初注入額ベース
'04/11	2,677	2,010	2,677	2,010
'06/5	* 2,759	2,040	5,437	4,050
'06/9	2,451	2,010	7,887	6,060
'06/9	6,530	4,500	14,418	10,560
'06/10	2,222	1,950	16,640	12,510
'06/10	768	500	17,408	13,010

* 上期返済額: 1兆1,740億円

(三井住友フィナンシャルグループ連結ベース)

2. 2006年度上期決算の概況

(5) 資本：自己資本比率

参照箇所：
決算短信P.11,21,22
説明資料P.7
データブック P.5

	06/3末	06/9末 (速報値)	06/3末比
Tier I	46,459	37,377	▲9,082
ウチ 資本金・資本剰余金	26,501	16,974	▲9,527
[ウチ優先株]	[14,603]	[5,553]	[▲9,050]
ウチ 利益剰余金	9,441	11,884	+2,443
ウチ 海外特別目的会社の 発行する優先出資証券	8,352	8,360	+8
ウチ 自己株式	▲44	▲502	▲458
Tier II*	40,677	37,377	▲3,300
其他有価証券含み益の 45%相当額	6,278	6,291	+13
土地の再評価差額の 45%相当額	399	397	▲2
一般貸倒引当金	7,426	7,128	▲298
永久劣後債務	10,358	11,262	+904
期限付劣後債務	16,216	14,690	▲1,526
小計	40,677	39,768	▲910
控除項目	▲6,193	▲6,306	▲113
BIS自己資本	80,944	68,449	▲12,495
リスクアセット	653,223	679,459	+26,236
自己資本比率	12.39%	10.07%	▲2.32%
Tier I 比率	7.11%	5.50%	▲1.61%

Tier I

- ① 公的資金返済(優先株簿価ベース) ▲8,550億円
[加えて公的資金優先株の一部を普通株に転換 ▲500]
- ② 連結中間純利益 +2,437
- ③ SMBCフロント証券完全子会社化に伴う
自己株式増加 ▲450
- ※ 繰延税金資産の対Tier 1比率(SMFG連結):
06/9末:26.0%(06/3末比 +4.4%)
- ④ ※ 06/10月に、公的資金優先株の買受・消却(簿価1,950
億円、返済額2,222億円)、並びに普通株の買受
(当初優先株簿価500億円、返済額768億円)を実施
(P.16ご参照)

Tier II

- ④ 算入上限超過分 ▲2,390億円

リスクアセット

- ⑤ 国内貸出 +0.6兆円
- 海外貸出等 +1.3
- 子会社(関西アーバン、みなと等) +0.3

*自己資本への算入額

(三井住友フィナンシャルグループ連結ベース、単位:億円)

3. 2006年度業績予想



3. 2006年度業績予想

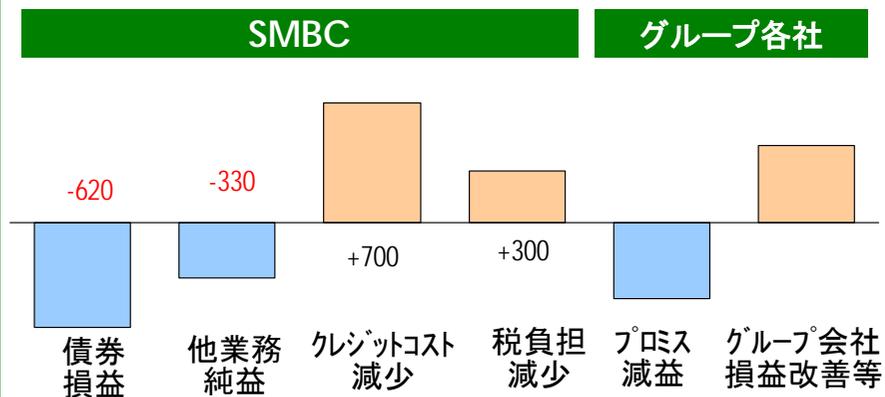
参照箇所：
説明資料P.20

(単位: 億円)

	当初 予想	今回 予想	増減
SMFG 連結			
経常収益	37,000	37,000	±0
経常利益	10,100	9,500	▲600
当期純利益	5,700	5,700	±0
SMBC 単体			
業務粗利益	15,400	14,450	▲950
経費 (経費率)	▲6,000 <39.0%>	▲6,000 <41.5%>	±0 <+2.5%>
業務純益*	9,400	8,450	▲950
与信関係費用	▲1,700	▲1,000	△700
経常利益	7,800	7,600	▲200
当期純利益	4,600	4,600	±0

当初予想比
増減要因

当初予想 5,700 ▶ 今回予想 5,700 [当初予想比±0]



業績予想の前提

為替相場: 115円/\$
(当初予想前提比▲5円)

部門別年間予想内訳

[SMBC単体]	上期実績	年間予想
マーケティング部門粗利益	6,279	13,860
市場営業等	0	1,100
本社管理	▲188	▲510
業務粗利益	6,091	14,450

* 一般貸倒引当金繰入前

4. 戦略ビジネスの概況、及び下期方針

(1) 上期総括：外部環境変化に対応しつつ、一段の強化策を展開



個人向けコンサルティング

- フランチャイズ強化を通じてビジネスチャンスを捕捉
- コンプライアンス体制強化

住宅ローン

- 顧客ニーズの変化に積極的に対応
 - ・超長期固定金利ローン
 - ・三大疾病保障付ローン

決済ファイナンス

- NTTドコモ、JR東日本、ヤフージャパンとの提携事業が順調に進捗

コンシューマーファイナンス

- カスケードスキームは着実に実績拡大
- 関連会社において大幅な引当積増しを実施

投資銀行ビジネス

- 事業再編、買収・買収防衛の動きが拡大する中、M&A、MBO/LBOファイナンス関連ビジネスに注力

中小企業向無担保貸出

- 貸出金利競争激化
- 中小企業の倒産件数増加を踏まえ、リスク/リターンを一段と重視した運営を展開

海外ビジネス

- 買収ファイナンス等、旺盛な資金需要に対応、アセットを機動的に配分
- 拠点新設(ドバイ、ホーチミン、ヒューストン、シドニー、ミラノ[SMBCE])



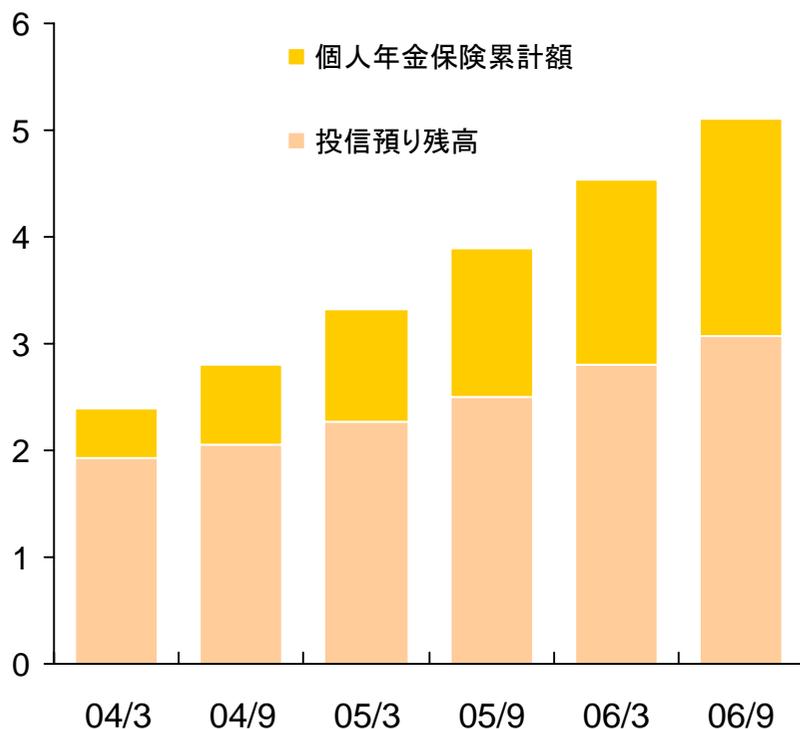
4. 戦略ビジネスの概況、及び下期方針

(2) 個人向けコンサルティング(資産運用ビジネス)

参照箇所:
説明資料P.16
データブックP.9,16

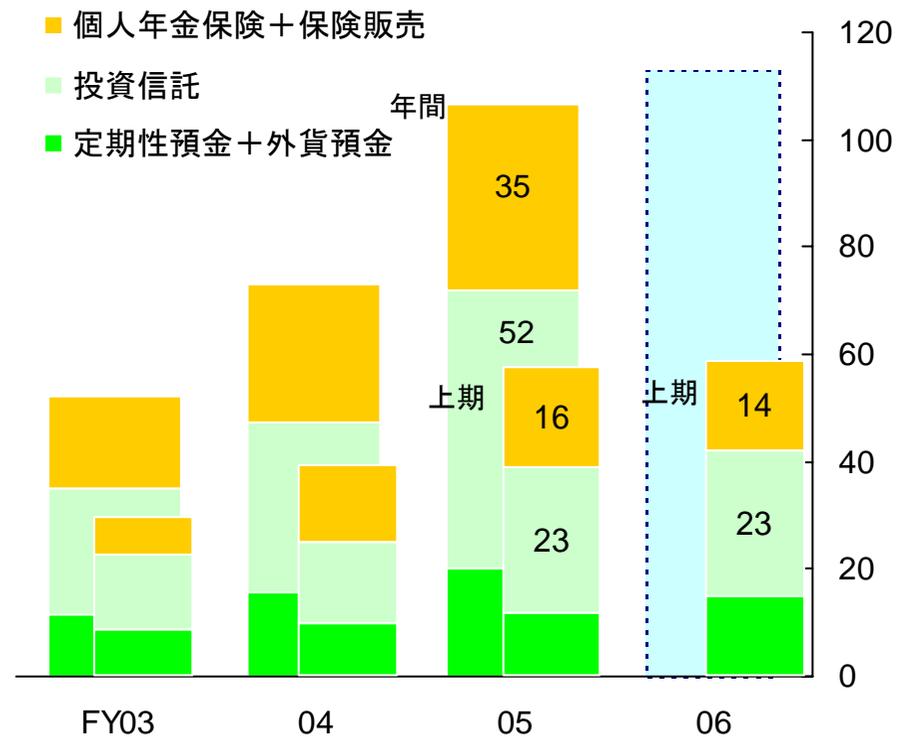
個人預り資産残高推移

(単位:兆円)



資産運用ビジネス関連収益*

(単位:10億円)



* 行内管理ベース

(三井住友銀行単体ベース)



4. 戦略ビジネスの概況、及び下期方針

(2) 個人向けコンサルティング(資産運用ビジネス)

フランチャイズの強化

✓ SMBCコンサルティングプラザ/オフィスの増設:

06/3末 06/9末 07/3末計画

コンサルティングプラザ/オフィス: 80 → 83 → 90ヶ店

✓ 新たなコンセプトの店舗開設:

SMBC白金高輪コンサルティングオフィス

✓ コンサルタントの増員、生産性向上に向けた施策を推進

✓ 投資商品販売等にかかるコンプライアンス体制を強化

来店型保険代理店事業への参画

✓ 三井生命、住友生命と共に展開

2006年10月～

✓ 外資系生保等を含めた複数の会社の商品を取り扱い

✓ ショッピングセンター、ホームセンター、駅ビル等を

中心としたインスタブランチ型出店

ノウハウ蓄積、ビジネスモデル確立

SMBCフレンド証券連携 ファンドラップ口座

当局認可を前提に06年度中～

✓ SMBCフレンド証券の

証券総合口座と投資一任サービスをパッケージ化、
証券仲介に準じたスキームで提供

投資対象

投資信託

契約金額

最低投資金額20百万円以上

アセットクラス

13アセットクラス、15ファンド

投資方針

事前質問表に基づき、顧客の
投資性向・リスク許容度を確認

5パターン程度のモデルポートフォリオ
(安全運用型～積極運用型等)を

ベースに顧客毎のポートフォリオを構築

手数料

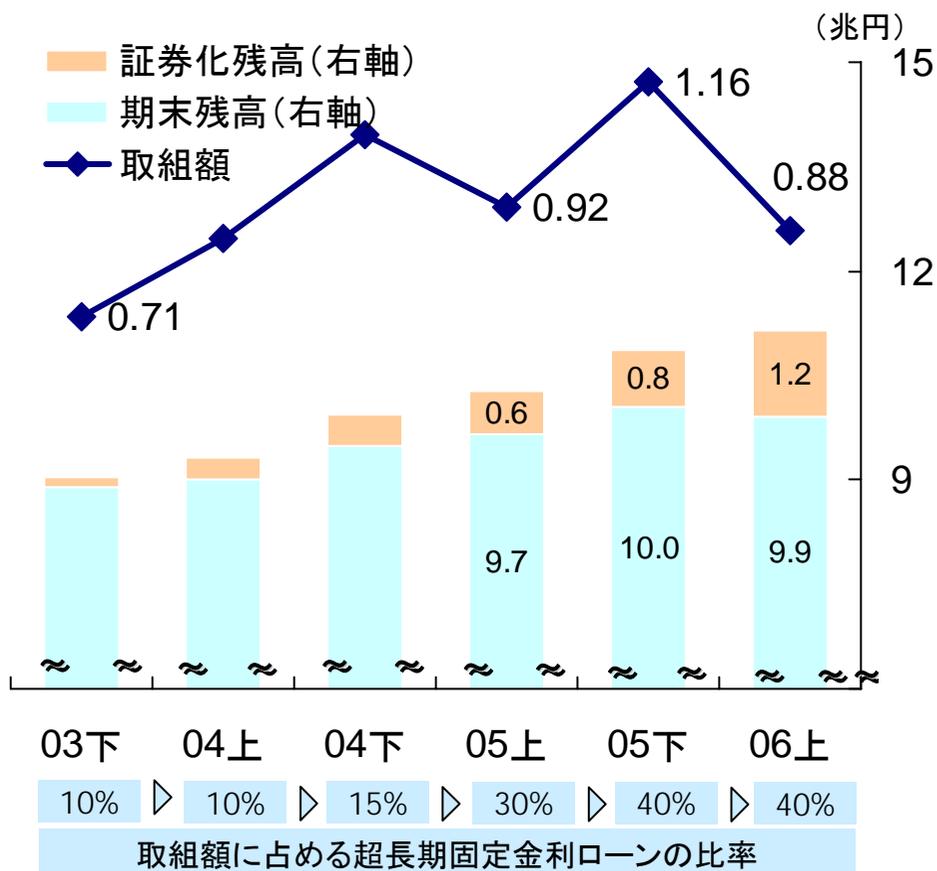
固定報酬型、成功報酬型から選択
(四半期毎後取)

4. 戦略ビジネスの概況、及び下期方針

(3) 個人向けコンサルティング(住宅ローン)

参照箇所：
決算短信P.19、
説明資料P.2、
データブックP.2

住宅ローン*



(参考)ローン商品開発における主な取り組み

ネット専用住宅ローン「ネットdeホーム」

2006年4月

三大疾病保障付住宅ローン

2005年10月

5つの慢性疾患へと対象範囲を拡大

2006年8月

商品差別化を通じて、

引き続きオリジネーションを拡大する方針

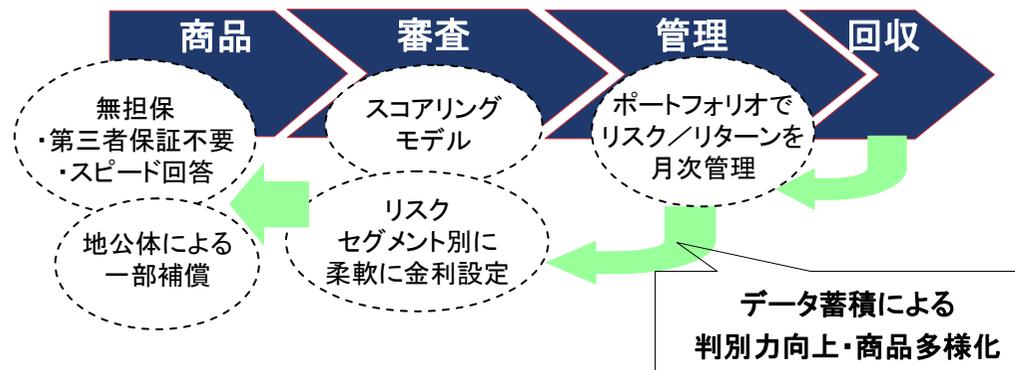
年間取組額2兆円水準、
取組ベース市場シェア10%を堅持

*自己居住用、取組額はつなぎローンを除く

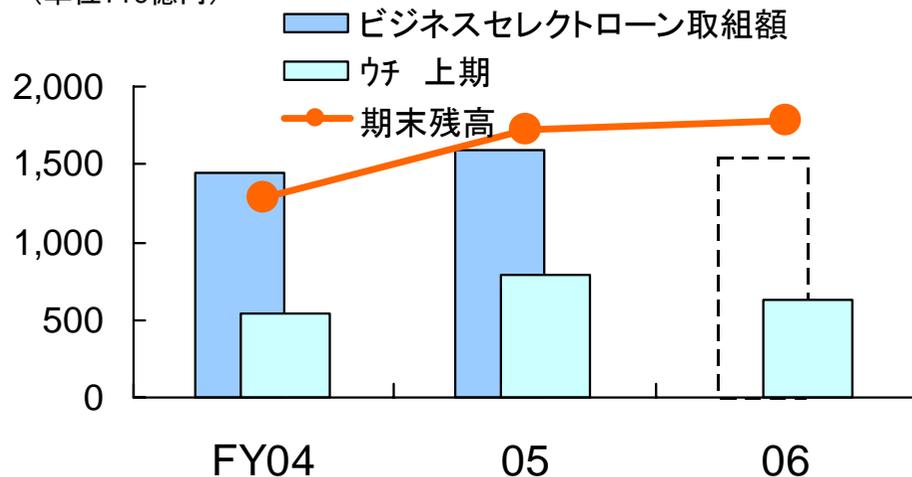
4. 戦略ビジネスの概況、及び下期方針

(4) 中小企業向け無担保貸出: 安定成長へ向けた施策展開

- ✓ セグメント毎のデフォルト率の推移を、金利テーブル・営業施策に、タイムリーかつ肌理細かく反映
- ✓ ポートフォリオの入替えを進めながら、信用コスト後利益を確保した、安定成長のフェーズへ



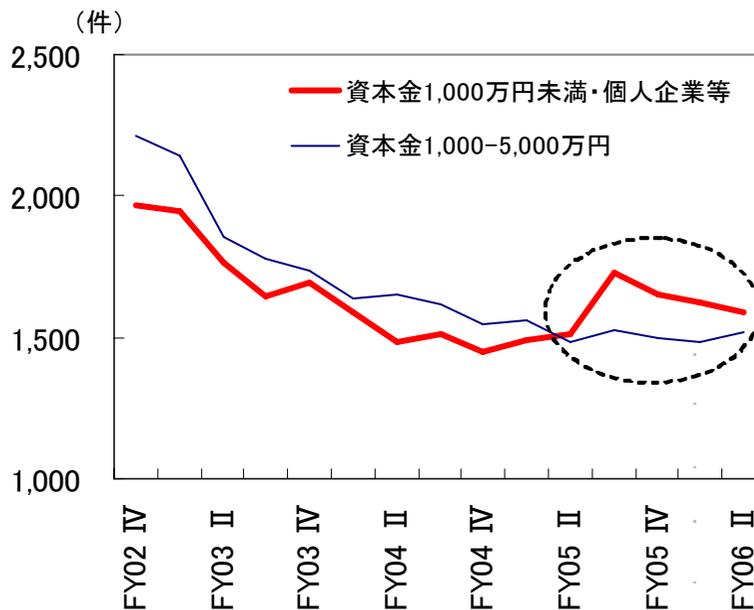
(単位: 10億円)



(三井住友銀行単体ベース)

(出所) 東京商工リサーチ

国内企業の資本金別倒産件数



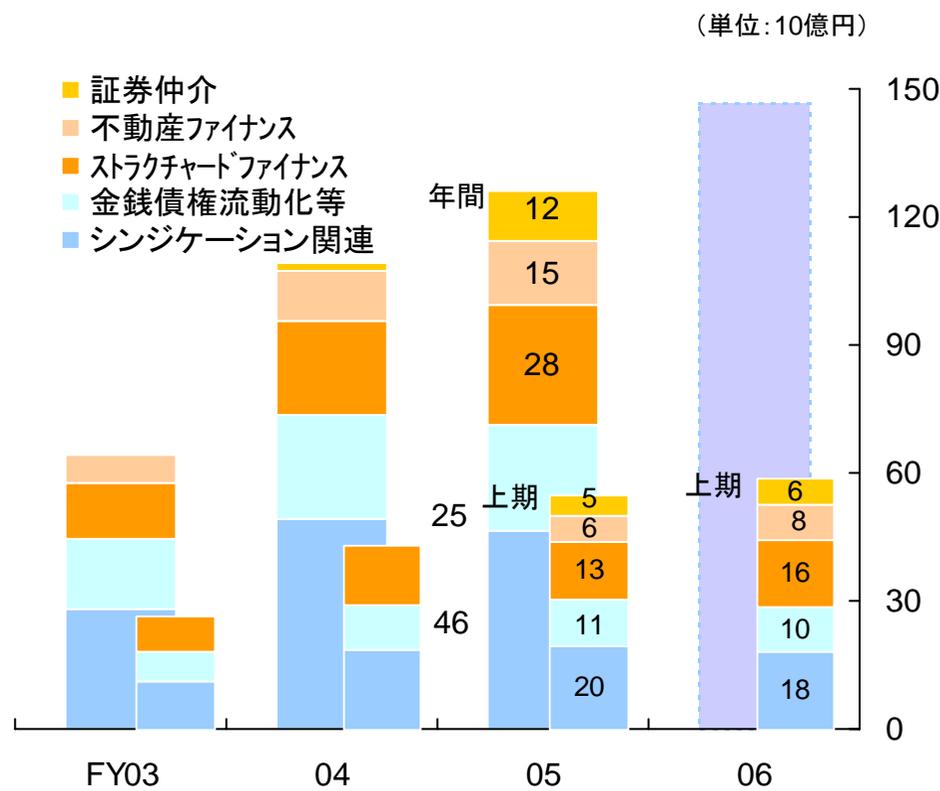


4. 戦略ビジネスの概況、及び下期方針

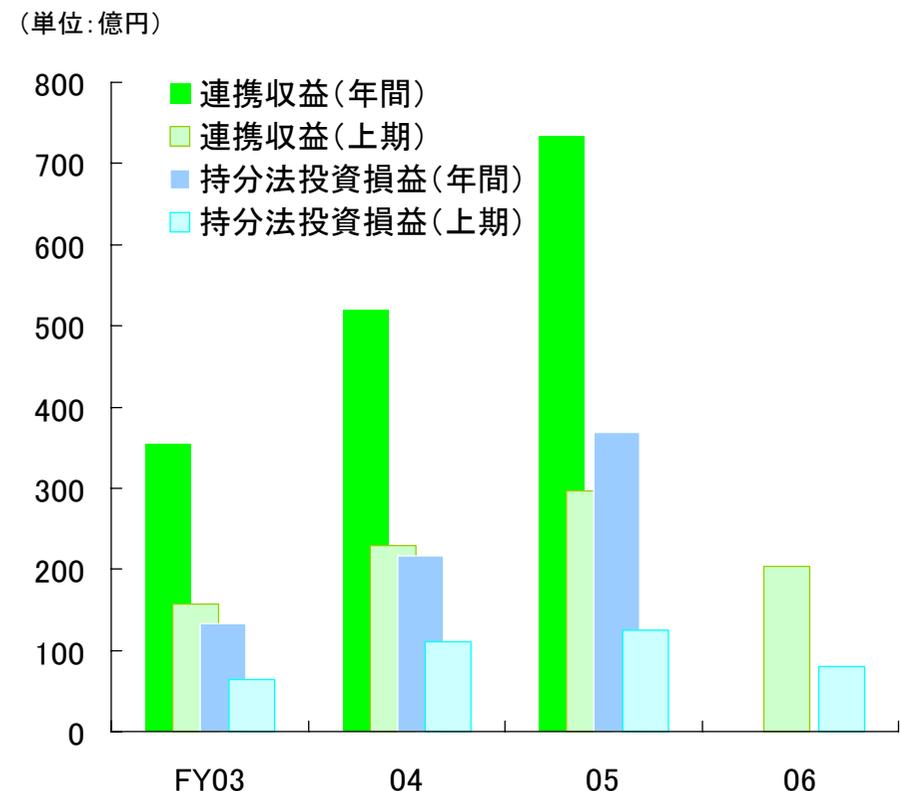
(5) 法人向けソリューション、海外ビジネス

参照箇所:
データブック P.9

投資銀行ビジネス関連収益(三井住友銀行)*



大和証券SMBC連携収益



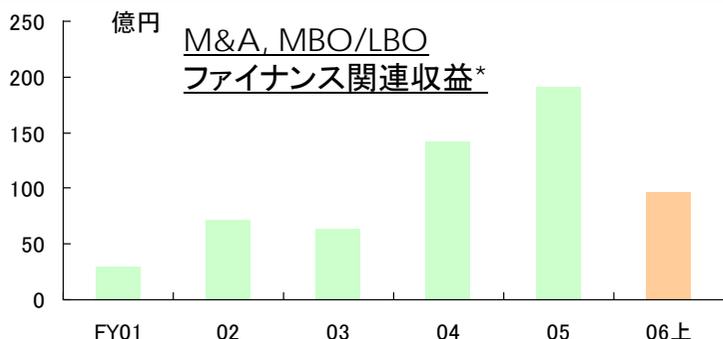
* 行内管理ベース

4. 戦略ビジネスの概況、及び下期方針

(5) 法人向けソリューション、海外ビジネス

✓ SMBCのリスクテイクの多様化・精緻化と、複合金融グループとしてのソリューション提供力の強化を通じて、顧客価値創造に貢献し、事業領域を拡大

M&A、MBO/LBOファイナンス



メザニン投資 (メザニンファンド、ハイブリッドキャピタル)

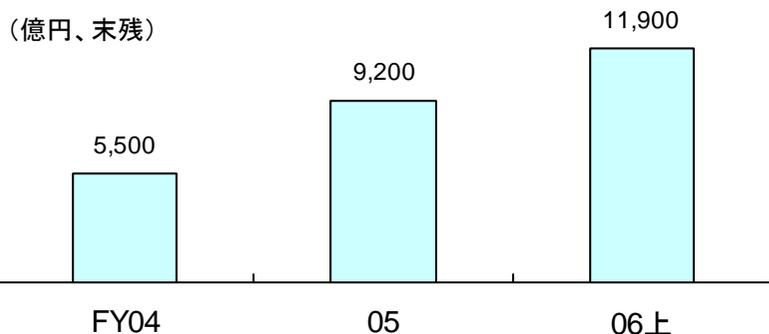
- 日本政策投資銀行と共同でファンド設立、メザニンファイナンス市場の育成に本格着手 (2005/11 設定時のファンド総額: 120億円)

設立後1年で、
2ファンド、総額827億円に拡大

ベンチャー投資

- NIF-SMBCベンチャーズを軸とし、企業の成長段階に応じた一貫したサポート体制を構築

不動産ノンリコースファイナンス**



海外ストラクチャードファイナンス

- 米・ヒューストンに、資源・エネルギー分野に特化した、産業特化型拠点を開設 (06/6月)
- ミラノに、イタリアで拡大しつつある特定プロダクト業務推進の特化型拠点を開設 (06/10月)

新たな地域への展開

- モスクワ駐在員事務所開設 (05/8月)
- ドバイ支店開設認可 (06年度中開設予定)
- ホーチミン支店開設 (06/6月)
- シドニー支店開設 (06/8月)

* 連携案件により大和証券SMBCの計上した収益を含む行内管理ベース

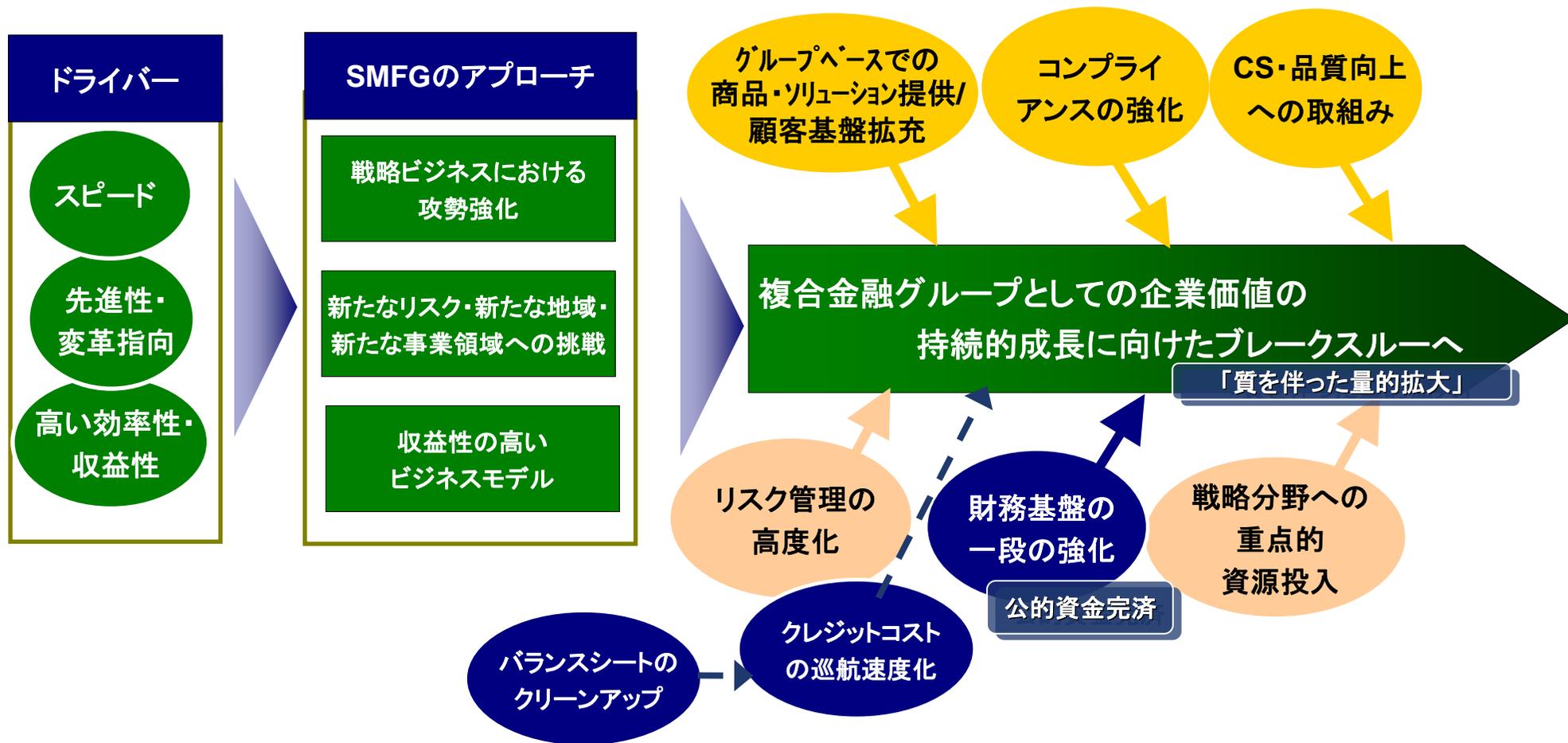
** ノンリコースローンの他に社債型のファイナンスを含む

5. 持続的成長に向けたブレークスルーへ



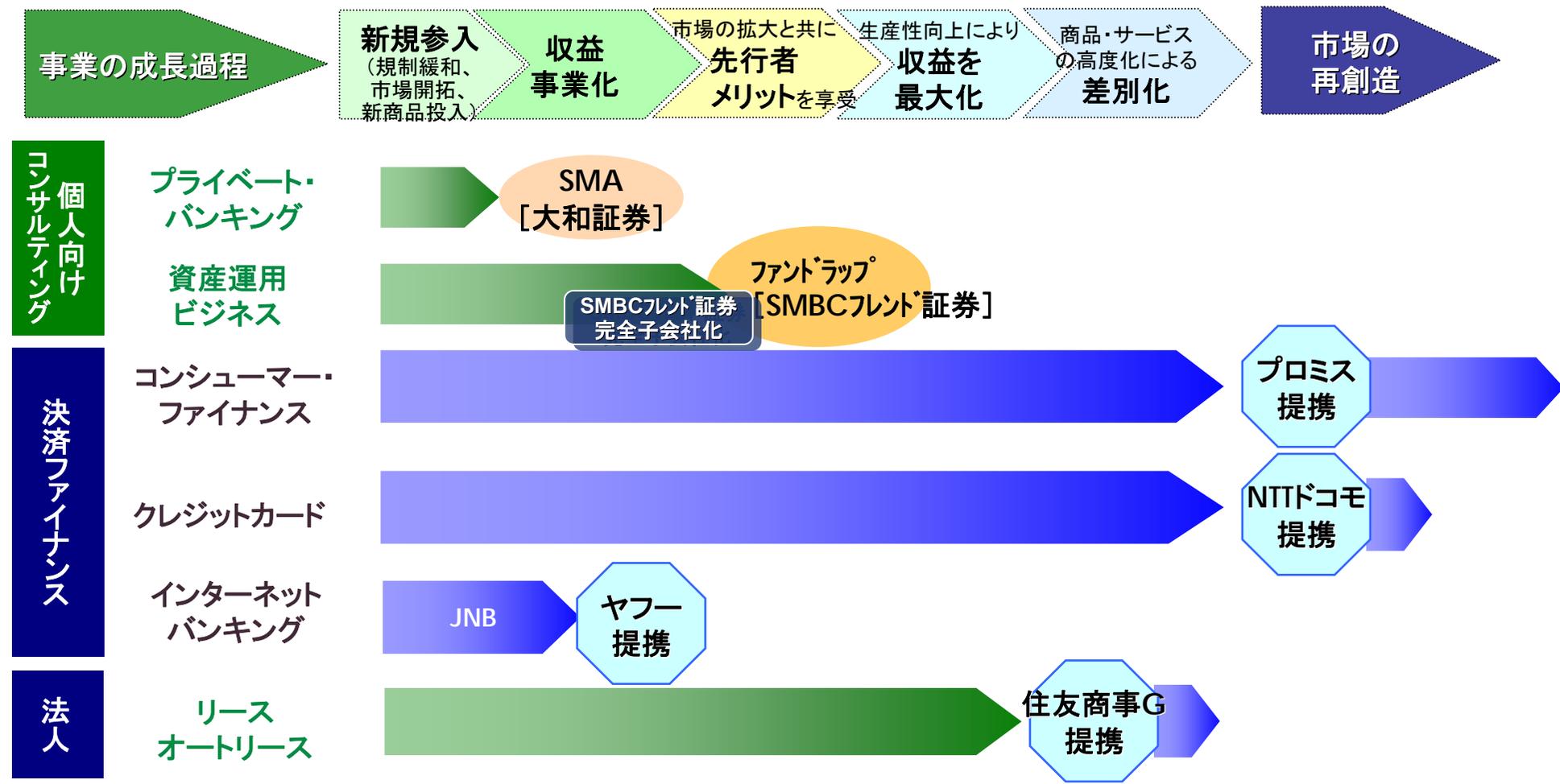
SMFG

5. 持続的成長に向けたブレークスルーへ



5. 持続的成長に向けたブレークスルーへ

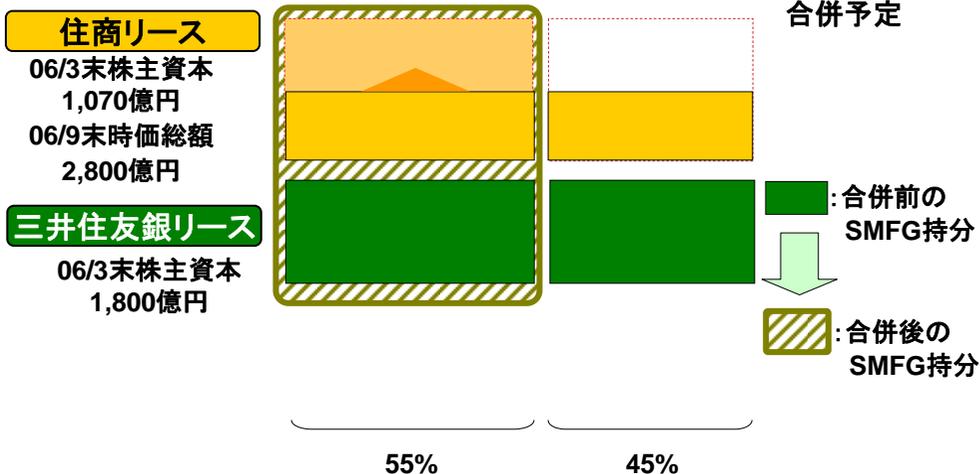
(1) グループ戦略 ～ 新たな“収益の柱”の創出に向けて ～



5. 持続的成長に向けたブレークスルーへ (1) グループ戦略: 住友商事グループとのリース／オートリース事業の戦略的共同事業化

✓バリューチェーンを活かした商社系リースと、
財務系ソリューション提供力を活かした銀行系
リースの、顧客基盤・ノウハウを結集・融合

新リース会社純資産



リース事業における業界地位の向上へ

(単位: 兆円)

	会社名	営業資産	うちリース延払資産等
1	オリックス**	5.9	2.0
2	リース事業新会社+ オートリース事業新会社	2.6	2.3
3	日立キャピタル	1.8	1.8
4	三井住友銀リース	1.6	1.5
5	ダイヤモンドリース	1.4	0.9
6	住商リース	1.0	0.8

リース・延払資産残高*

オート管理車両台数***

	会社名	車両管理台数(千台)
1	オリックス自動車	529
2	オートリース事業新会社	470
3	住商オート	236
4	三井住友銀オート	234
5	三菱オート+ダイヤモンド	180
6	日本カーソリューションズ	171

* 2006年3月期単体ベース、各社の有価証券報告書等による

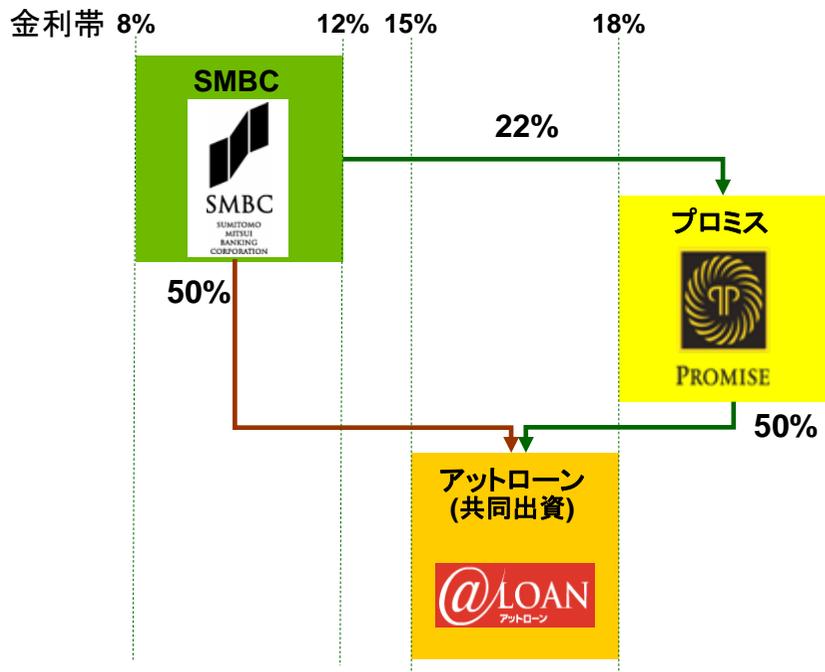
** 2006年3月期連結ベース

*** 2006年3月期ベース、矢野経済研究所による

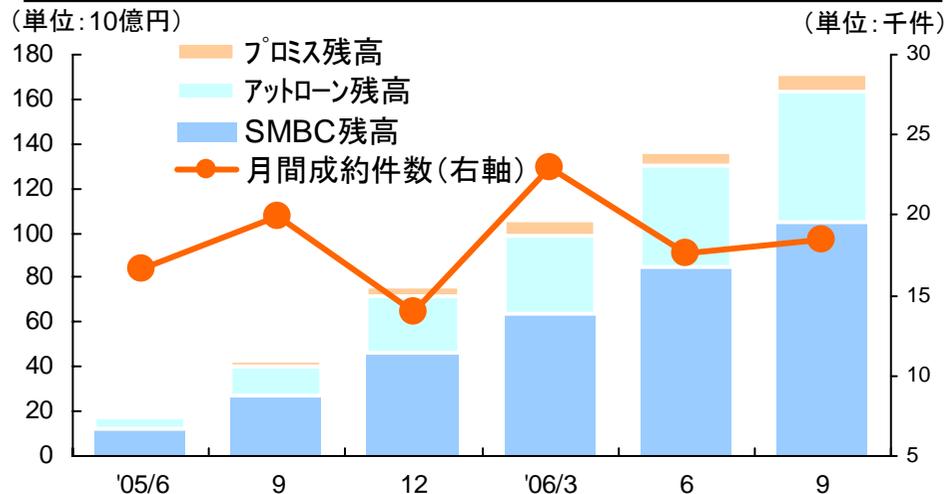
5. 持続的成長に向けたブレークスルーへ

(1) グループ戦略: プロミス提携

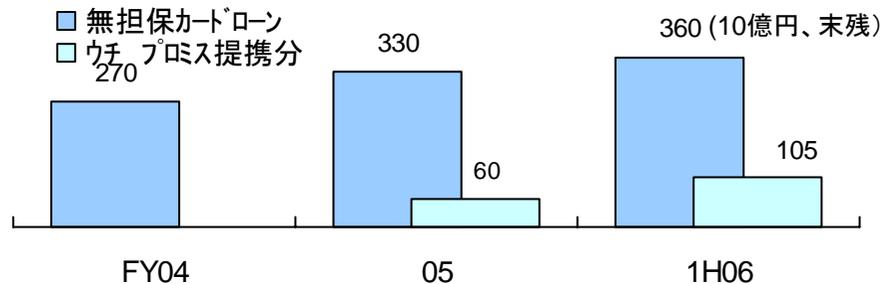
提携事業は順調に残高を積み上げ
 コンシューマー・ファイナンスの
 新たな市場開拓に引き続き注力の方針



提携業務の進捗状況



無担保カードローン残高 (SMBC単体)



* 出資比率は2006年9月末現在

5. 持続的成長に向けたブレークスルーへ

(2) CS・品質向上、コンプライアンス強化への取り組み

コンプライアンス強化



CS・品質向上

CCFアクションプラン

Customer Comes First, Compliance Comes First

組織面

- 業務管理委員会設置
- グループ業務管理室設置
- コンプライアンス部門設置
- コンプライアンス統括オフィサー設置

- 経営会議役員を構成員とした、「CS・品質向上委員会」を外部有識者も招聘し毎月開催、品質向上施策を討議
- 品質管理部設置

運用面

- 業績評価制度変更
 - ・単年度収益、持続的成長、顧客志向・コンプライアンスを等分評価
- 本店、営業店の監査強化

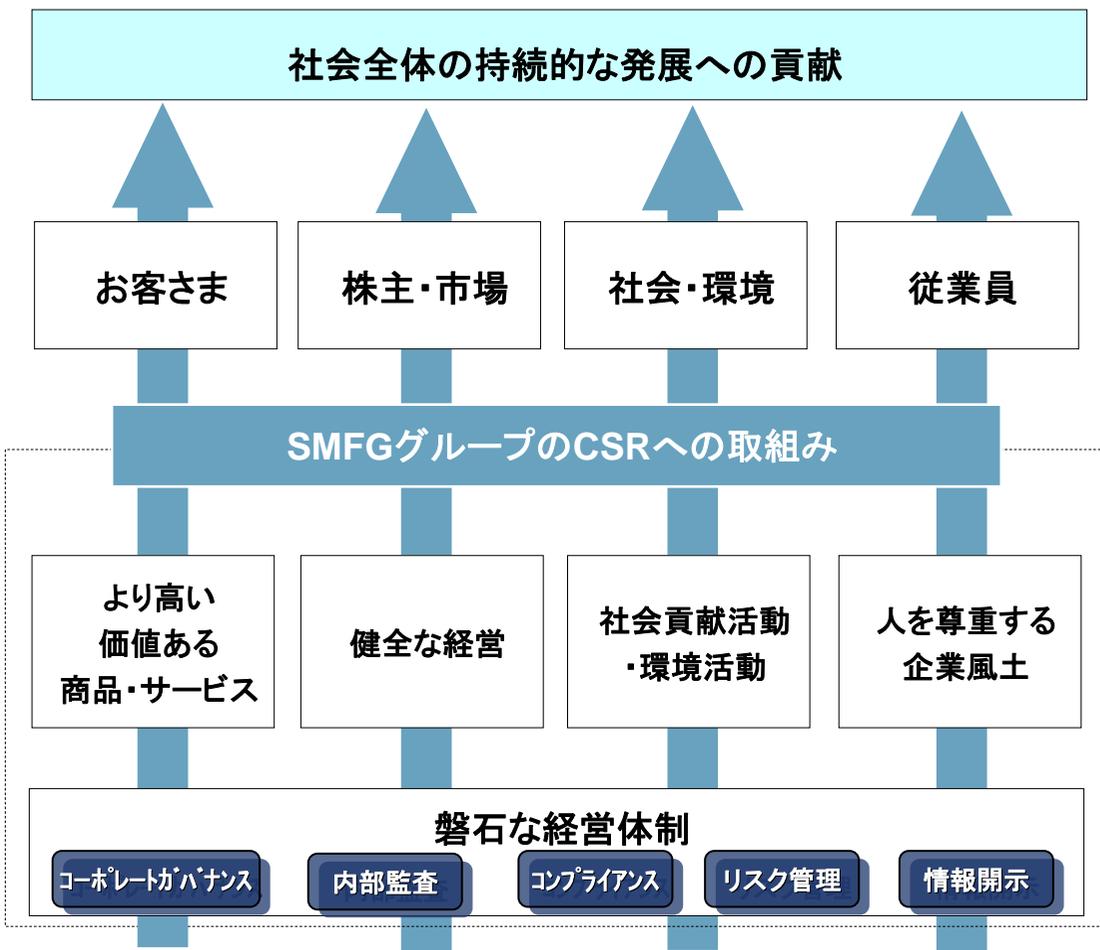
- お客さまの声(「苦情」「要望」「批判」「提言」)のデータベース活用の高度化
→本部の施策立案に反映
- モニタリング活動を拡充
 - ・第三者による営業店モニター評価
 - ・店頭／郵送お客さまアンケート
- 営業拠点毎に「CS活動推進計画」を導入

持続的成長を支える強固な企業基盤の構築



(ご参考) CSRへの取組み

SMFG



最近の主な取組み

お客さま

- 品質管理部の設置
- キャッシュカードセキュリティ向上への対応
- バリアフリー対応等

ガバナンス

- 内部統制の高度化
- コンプライアンス体制の一層の強化 (コンプライアンス部門設置)

社会・環境

- エクエーター原則の採択
- 環境ビジネスへの取組み強化

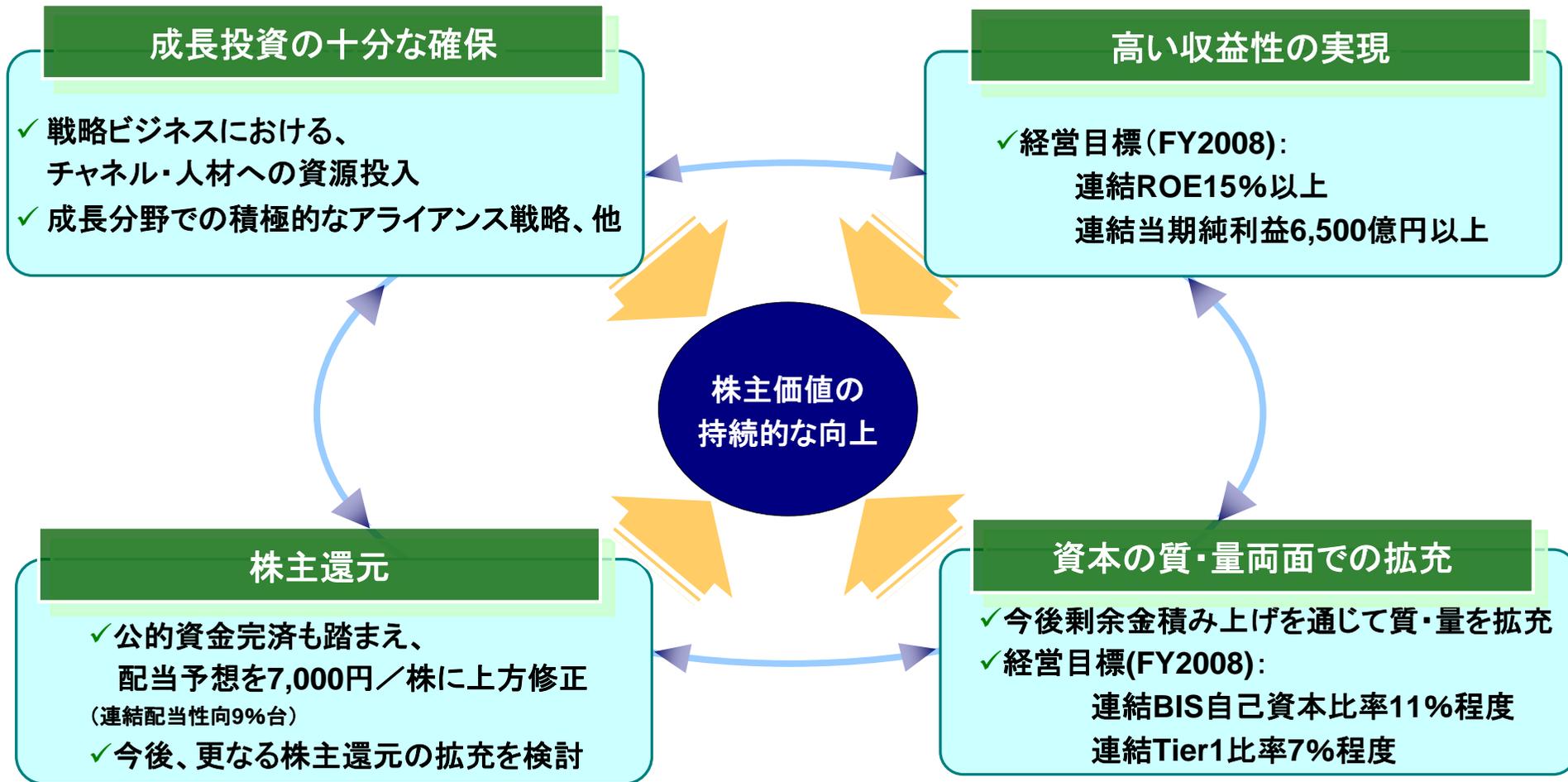
従業員

- 女性活用施策の導入
- 人事制度の拡充 (360度評価の導入、等)



SMFG

6. 最後に



SMFGの経営理念

- ✓お客さまに、より一層価値あるサービスを提供し、お客さまと共に発展する。
- ✓事業の発展を通じて、株主価値の永続的な増大を図る。
- ✓勤勉で意欲的な社員が、思う存分にその能力を発揮できる職場を作る。



SMFG SUMITOMO MITSUI
FINANCIAL GROUP

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。